

院長紹介

令和元年4月より当院に院長として赴任しました窪田 正幸と申します。

昭和54年九州大学医学部卒業後、国立大学で初めて九州大学医学部に開設された小児外科学講座に入局し、その後40年間小児外科診療に携わってきました。

この間、九州大学薬理学教室に大学院生として在籍し消化管機能の研究を行い、続いて米国メイヨークリニック生理学教室にて研究を継続発展させております。

愛媛大学第二外科では、小児科だけでなく成人外科や麻酔の研鑽を積むことができました。小児外科は15歳までの小児の外科疾患を幅広く治療する分野で、申請時の先天性外科疾患、消化器疾患、肝胆道疾患、小児悪性腫瘍、小児泌尿器、鼠径ヘルニア、停留精巣など多彩な疾患の治療を担当してきました。平成13年より新潟大学小児外科学講座に教授として赴任し、学生教育、研究、学会活動、ガイドライン作成などの教育研究分野にも携わってきました。当院赴任後は今までの臨床・研究経験を活かし、新たに腹膜透析の患者様や呼吸器治療の必要な患者様の受け入れも開始し、幅広い患者様のニーズに応えられるように努力しています。令和2年に東洋医学会の専門医を取得することができ、漢方外来も新設し、入院患者様にも漢方治療を積極的に導入しています。当院は慢性期療養型病院で、総合病院や大学病院で治療が一段落し、慢性期医療の必要な患者様を担当していますが、患者様のニーズは多彩で、現在も日々研鑽を重ね、患者様に満足戴ける診療を心掛けています。小児重傷者の短期療養ケア入院も受け入れています。入院治療においては総合病院とも密接に連携し、地域医療に貢献できるよう微力ながら頑張っております。